

『哲学対話』そして猿八座・新潟新春公演のご案内

2017年度の「人文カフェ」のテーマは、「今、子どもの感性を考える」

新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で開催されている「人文カフェ」、本年度は、第三回目まで終了しました。今後は、「哲学対話」や、ロンドン公演が放送された人形浄瑠璃「猿八座」をお迎えする豪華なラインナップです。

参加無料ですが、要予約です。お誘いあわせの上、早めにご予約ください！ **下記のメールアドレスへお申し込み下さい。**

第4回：2018年1月6日（土）——「講義室A」にて「哲学対話」と人形浄瑠璃「猿八座」公演：募集100名

14:00～17:45 「哲学対話」

白井述(人文学部准教授)「子どもとヴァーチャル・リアリティ」——土屋洋介「子どもの感覚能力と心の発達」——阿部ふく子(人文学部准教授)「子どもの感覚と大人の感覚」——西橋健(「猿八座」座長)「子どもの立ち居・振る舞いと佇まい」

18:00～19:40

人形浄瑠璃「猿八座」新春公演 ①「信太妻」と ②「源氏烏帽子折」初段、竹馬の場

第5回：2018年1月7日（日）——「講義室A」にて平家琵琶と人形浄瑠璃「猿八座」公演：募集100名

13:00～13:50

平家琵琶:鈴木孝庸(新潟大学名誉教授)「宇治川」

14:00～15:40

人形浄瑠璃「猿八座」新春公演 ①「信太妻」と ②「源氏烏帽子折」

「新春を寿ぐ伝統芸能の夕べ」のご予約は

ningengaku.niigatauniv@gmail.com へお名前と参加希望日、参加人数を明記の上、メールでお願いします。

携帯電話は、10時から18時までの間、080-2012-9115(西橋)で承りますが、非通知の方はお受けできません。





「信太妻」の解説とあらすじ

平安時代に実在した陰陽師・安倍晴明は宮中の天文博士として、並外れた占いの力を発揮したことから、いつの頃からか、晴明の母は狐だという伝説が生まれました。近世には浄瑠璃の演目となり、最古の台本は1674年に刊行された「しのだづまつりぎつね付あべノ清明出生」です。今回の新春公演にあたりましては、この正本を用いて、五段のうち「葛の葉子別れ」で知られる三段目が上演されます。

和泉の国（現在の大阪府）、信太の森近くに、ひっそり暮らす家族がおりました。秋の一日、夫、安倍保名は畑を耕しに、今日も野良へ出かけたのです。妻の葛の葉は七歳になる安倍の童子（成人して陰陽師安倍晴明になります）を寝かしつけ、はたを織り始めますが、庭に咲き乱れる菊の花に見とれるうち、うっかりその本性を顕してしまったのです。実は妻は、以前保名が命を助けた狐の化身だったのです。目を覚した童子に狐の姿を見られた母は、もはや人間界にとどまることを許されないのです。夫と我が子への尽きぬ思いを一首の歌に残し、彼女は泣く泣く信太の森へ帰って行きました。

恋しくば尋ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉

あきらめきれない父と子は、葛の葉の姿を求め、日の暮れた森をさまよいながら探しますが、見つけることができないまま、悲嘆のあまり自害しようとしています。そこに狐が現れ、再び葛の葉の姿となって童子に形見の品を与えたのです。成人したその子は、その形見の不思議な力で、帝の病気の原因をつきとめて、宮廷お抱えの陰陽師となったのでした。

